

やまとけうぐわいてん

日本教外典

青山ライフ出版

神鳥古贊

かんどりこさん

日本教外典 目次

第一章 宗教

7

神道 8

日本佛教 10

日本基督教 14

日本教 18

大日本教 21

古事記	24	謠曲集	43
萬葉集	26	新菟玖波集	44
法華經	28	連歌集	46
古今和歌集	30	千利休	47
源氏物語	31	信長記 太閤記	49
今昔物語集	33	元祿期俳諧集	51
新古今和歌集	34	安永天明期俳諧集	52
平家物語	36	江戸後期文学	54
法語集	38	幕末維新时期文学	57
太平記	39	福音書	58
菟玖波集	41	即興詩人	60

明治期新詩集 61

昭和期詩集 66

大正昭和初期詩集 63

大東亞戰期詞華集 69

如是經 65

三島由紀夫 73

第三章 神鳥古外傳

75

第四章 神鳥古夜話

119

第一章
宗教



神道

我が日本に古くより伝はる土着の宗教を神道とは呼べり。神道の名は卜部神道など、その名の文献にあらはれたる鎌倉時代より始まりしか。

その教義とては無きに似たり。教典として「古事記」や「日本書紀」、或ひは「祝詞」「宣命」「風土記」の類ひをまとめ、これを「神典」と呼びしは何時よりぞ。

その宗教としての死生観は如何なるものならんや、即ち「古事記」に曰はく、伊邪那岐、伊邪那美命の契約により「一日に必ず千人^{ちたり}死に、一日に必ず千五百人^{ちいほたり}生まるゝなり。」と。これ即ち統計学的死生観なり。

さて、卑彌呼の時代に銅鏡を魔鏡として用ひ、「鬼道もて衆を惑はす。」と、古代支那

文献に記されたり。即ちこれ世紀末的動搖の時代なりき。(されば、卑彌呼は吸血女か。)かくて「古事記」に記されたる「葦原ノ中ツ國はいたくさやぎてありなり。」とて、九州の豪族は日本平定に乗り出だせり。「神武東征」なりき。

こは、応仁の戦国時代の前の、南北朝の戦国時代の前の戦国時代にして、その前の戦国時代は、大國主神の兄神達追討なるべし。我が国は統治の難き国なりき。

「古事記」を教典とするからに、神道は天皇を神の直系と見爲し奉り、国の統治を神との契約もて委任されたるものと教ふるものにてあるべし。

現代の日本人も、天皇の御存在を敬たてまつひ奉り、言祝まことぎ奉りゐます。天皇の御存在に否定的なる者も、その理由として先の大戦の責任を挙げゐたれば、天皇に責任のなければ、もつて天皇を否定する理由は無きなり。先の大戦の責任は、国力に見合はぬ政治を行ひし政治家や官僚達にこそあればなり。

さて、神道の教典「神典」は古代天皇にまつはる文献を集成して成りたり。されば、さしづめ神道とは「天皇教」の事なりき。

日本佛教

朝鮮半島は百濟の國より、佛教初めて伝へられて、天皇の帰依によりて日本の国教となりたり。

その後ち、最澄、空海、それぞれに天台宗、眞言宗を広めて日本佛教の礎と爲したり。天台宗の最も秘奥の教典と崇むるは「法華經」にして、こは佛教全般に於いても最も